P.M ニュース 号外

1931.3.24発行
市外上落合460
日本プロレタリア
音楽家同盟

プロレタリア大音楽会

第二回公開

三月二十九日（日）午後一時開場
一時半開演
（ヒル、ヨル二回）
午後六時半開場
七時開演

於、築地小劇場

入場料、一般三十銭、労働者十銭、

全同盟員研究生諸君！。俺たちの第二回公開プロレタリア大音楽会はあと五日にせまつたぞ！。俺たちの全精力的準備はどこまで進んでゐるか？ 速かに自己批判せよ！。而して更に全精力を音楽会に傾注せよ！。

全同盟員研究生諸君！。作年からの経験によれば公開演奏は音楽会が唯一の残された方法なのだ。練習が足りないとか検閲が通るかとか言つて出来ない様に思ふのは大きな誤だ。是が非でも此の音楽会を守るべく全努力を拂はねばならない。俺たちの音楽会を俺たち自身の手で守らなくても好いのか？。特に連續欠席者諸君！。再三再四の召集が諸君の手に渡つてゐる筈だ、然るにそれに対する何の缺席理由の通知もなく安閑とサボッテゐる奴がゐるが最近の練習にはいつも最も熱心な五六名の同志の顔しか見えない、諸君は自分一人位ゐなくても音楽会が出来ると思つてゐるのか？。直ちに自身の音楽家同盟の一メンバーとしての態度を批判して音楽会特別練習に参加せよ！。

音楽会準備は次の様に進んでゐるぞ！。合唱班から一番多くの曲目が出てゐるが一番練習準備のおくれてゐるのは合唱班だ！。二十四日から二十八日まで毎夜猛練習を開始する。獨唱者には原、山本、新島、露木、関の五名、合唱が全部で十三曲、その他に器楽班からはハーモニカ組曲が二、絃楽四重奏が二曲、半分以上は新しい曲ばかりだ、その中日本の作曲家によつて作られたのが五六曲ある。その検閲に就ては今届出中なので判きりした事はわからないが、あらゆる努力を拂つて安産である様にガンバッテゐるぞ。その中二三はやれなくなつても音楽がやれなくなる事はない、音楽会を通じて全プロレタリアート自身の音楽を築地に集る労働者農民諸君の前に発表した時、検閲のひどいひどくないに拘らず、有意義なのだ。

全音楽家同盟員研究生諸君！。

俺たちの音楽会は俺たちの手で守れ！！

第二回公開プロレタリア大音楽会万才！。

今二十四日にレコード吹込をする事になつてゐたが練習の都合上来る三月三十日（月）に延期した。尚この吹込には左翼劇場、新築地の有志が助演してくれる事になつた。